北 寄 貝 の 生 長 と 壽 命¹⁾

木 下 虎 一 郎

(北海道水産試験場)

On the Growth and Life of *Mactra sachalinensis* SCHRENCK.

T. KINOSHITA

SYNOPSIS

On 6th of October, 1933 the author released *Mactra sachalinensis* of the size, length 8.5 cm high 7.1 cm with description tag at the shore of Osyamanbe, Yamakoshi-gun, Hokkaido and recaptured the same at this shore on 10th of February, 1948 with the size of length 11.5 cm high 9.2 cm.

According to our investigation of the growth of this kind of shell at the year of 1945, the one length 8.5 cm can be regarded 12 years old, therefore it can be confirmed that above recaptured shell already has been kept life of 26 years as this one passed 14 years 4 months since released.

14 年 4 ヶ月目で再捕された北寄貝
(白色部は放流後の伸長部)

アコヤガヒは 20 年の壽命があると称せられ、北海道の厚岸湖や松島湾に産するナガガキは生後十数年を経たものがあると云はれる²⁾が、之等に就ても明かに示された文献はない様である。

今回、著者は標識放流後 14 年 4 ヶ月目で再捕されて、生後約 26 年と推定される北寄貝 1 個を得た。即ち昭和 8 年 10 月 6 日、北海道膽振國長万部産の殻長 4.2 ~ 10.95 ㎝の北寄貝、437 個に標識として介殻面上に齒科用旋盤で数字を彫刻し放流したもの 1 個が、昭和 23 年 2 月 10 日、当時の助力者である長万部村の漁師、司馬力彌氏の桁網にかゝつて再捕されたのである。勿論、生後で再捕されたものであるが、遺憾乍ら著者の手許へは左殻片のみしかとゞけられなかつた。従つて放流当時との比較は殻長と殻高のみしか出来ないのであるが第 1 表の通りである。

(1) 北海道水産試験場増殖部業績

(2) 松原喜代松(1947). 水産講座 6, 7.

第 1 表

	放流時の大きさ (昭和8年10月6日)	再捕時の大きさ (昭和23年2月10日)	14年4ヶ月間の生長
殻 長	8.5 匁	11.5 匁	3.0 匁
殻 高	7.1	9.2	2.1
殻 幅	4.95	—	—
重 量	164 瓦	—	—

而して北寄貝の年齢と生長との関係に就ては、³⁾ 著者は石栗と共同で、根室國野付郡別海村床丹で行つた標識放流試験の結果から第2表の如く結論した。

第2表 北寄貝の年齢と生長

年 齢	殻 長	殻 高	殻 幅	重 量
2	3.5 匁	2.9 匁	1.5 匁	7 瓦
3	4.8	3.9	2.2	21
4	6.4	5.2	3.3	60
5	7.2	5.9	3.9	91
6	7.6	6.2	4.1	109
7	7.9	6.4	4.4	131
8	8.1	6.6	4.5	135
9	8.2	6.7	4.6	141
10	8.3	6.8	4.7	151
12	8.5	6.9	4.8	162
14	8.7	7.1	4.9	178
16	8.9	7.2	5.1	191
18	9.1	7.4	5.2	208
20	9.4	7.6	5.4	229

この結果から見ると、今回の再捕貝の放流当時の年齢は略ぼ12年生と推定されるから、それから経過すること14年4ヶ月、即ち約26年の生を経たものと考へられる。

3) 木下虎一郎・石栗俊良(1940). 水産研究誌 35(2)。